

## 前回の指摘事項と対応状況について

資料2

前回の指摘事項	対応
本報告書の想定する読み手を明確にすべきではないか。	前文に記載。
ウェルネスの概念を前面に押し出す記載を加えるべきではないか。	要旨及び今後の展望に記載。
サルモネラの血清型別の情報についても記載すべきではないか。	本文に記載。
カンピロバクターにおけるマクロライド耐性についても記載すべきではないか。	本文に記載。
SSIの起因菌について記載すべきではないか。	SSIの起因菌については薬剤耐性が否かを届け出ているものではなく、今回の薬剤耐性に係る報告書の趣旨から外れるため、記載はしないこととした。
JANISとNESIDの関連性について検討を進めるべきではないか。	厚生労働科学研究で検討を行う。
CDIに関して今後、把握していくべきではないか。	厚生労働科学研究で検討を行う。
肉用鶏由来のE.coliのセファロスポリンの耐性率について、2010年のデータも記載すべきではないか。	本文に記載。
セフチオフルの適応外使用が中止された点についても記載すべきではないか。	本文に記載。
愛玩動物におけるヒト用の抗菌薬の使用状況についても検討を進めるべきではないか。	本文に記載。農水省が調査方法検討中。
表において分母の数字も記載すべきではないか。	適宜、表に記載。
ヒトと動物での抗菌薬使用量の比較法について検討を進めるべきではないか。	農水省と協力し、厚生労働科学研究で検討を行う。
抗微生物薬適正使用の手引きのアウトカムへのインパクト評価等施策の有効性について評価を行うべきではないか。	厚生労働科学研究で検討を行う。
本報告書の英語名についても記載をすべきではないか。	巻末に記載
ヒト、動物、食品などからの耐性菌や抗菌薬が下水に流れ環境に戻り、さらには環境からヒト、動物、食品にどのようにして還っていくかを研究するにあたって、conceptual frameworkを決めていく必要があるのではないか。	農水省と協力し、厚生労働科学研究で検討を行う。